

新年を迎えて

迎春



皆さん、明けましておめでとうございます。

清々しく健やかな新年を迎えておられることと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

いよいよオリンピック・パラリンピック東京大会が開催される年、2020年が幕を開けました。今回の大会は、私にとって生涯二度目となる自国開催であり、かつ、空手競技が初めてオリンピックの場に登場する、まさに記念すべき大会があと数か月後に迫っています。前回の東京大会(1964年)の当時は、まだ小学校の低学年だったこともあり、オリンピックの価値すら十分に認識しないまま、ロータリーチャンネル式の白黒テレビで、女子バレーボール(東洋の魔女)や男子体操競技(団体金・遠藤選手個人金)などを一生懸命に見ていた記憶があります。あれから56年、まさに光陰矢の如しです。今回は、56年間を費やして養った眼で、存分にオリンピック・パラリンピックを観戦したいと思います。特に空手競技は、昨今の国際大会で、日本の選手が苦戦を強いられており、残された時間でどれだけブラッシュアップできるかが課題です。驕りを捨て、けれど本場の誇りをもって、戦ってほしいと思います。

私たち錬聖会としても、2016年からの中期計画において、「オリンピック開催の2020年を目指した組織目標」を掲げ、各道場の運営体制や指導員の若返り、さらには月1回の強化練習や年に1回の錬聖会大会による組織の一体感づくりなどに努めてまいりました。その結果、関係する皆さまのご指導・ご協力により、会員数(道場生の数)は順調に増え、新たな拠点である東京、和歌山での活動も定着しつつあります。また、昨年は国体や全日本空手道選手権大会といったひのき舞台に2名の選手が参加し活躍するなど、選手のレベルも一層向上しています。これらにより「人材育成のための公器となる」という錬聖会発足の理念の実現に向け、着実に前進していることを実感できる年でした。

今年は「※ 庚子(かのえ・ね)」の年、俗説では、変化の中から新しい活路を見出せる時機だそうです。

※干支は「庚(かのえ)」、十二支は「子(ね)」の60年に一度の組み合わせ

錬聖会としては、オリンピックによる空手の盛り上がり追い風とし、さらなる飛躍を図る年にしたいと思います。そして皆さん方一人ひとりにとっても、新たな目標に向けて、さらなる成長を達成できる年になるよう祈念しています。錬聖会は“頑張る あなた”をいつも応援しています。今年もお互いが切磋琢磨する関係で、全員が、健やかに、そしてたくましく、空手家として前進して行きましょう。

2020年1月1日



日本空手道錬聖会
会長 森 拓生

